

令和4年9月27日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港管理組合
名古屋四日市国際港湾株式会社

名古屋港飛島ふ頭東側（NCB コンテナターミナル） R1 岸壁の供用開始について

令和4年10月1日、名古屋港飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業の第1弾として整備が進められていた飛島ふ頭東側（NCB コンテナターミナル）のR1岸壁が、水深15m、延長約350mの耐震強化岸壁として、22列8段積みツインスプレッド対応の大型ガントリークレーン2基とともに供用を開始いたします。

名古屋港飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業は、供用から40年以上経過して老朽化した飛島ふ頭東側（NCB コンテナターミナル）の水深12m岸壁（R1、R2）の大規模修繕と、船舶の大型化に対応した増深改良を合わせて実施することによって、施設の機能向上を図り、名古屋港背後圏に立地する基幹産業の国際競争力を図るものです。

今般、直轄事業によるR1岸壁の増深改良・耐震強化工事が完了するとともに、名古屋四日市国際港湾株式会社によるガントリークレーンの整備が完了したことから、R1岸壁部分が供用開始することとなりました。

これまでのR1岸壁では、全長300m以上の船舶は着岸できませんでしたが、新たなR1岸壁の供用によって、隣接する飛島ふ頭南コンテナターミナル93号岸壁との連続バースの運用で最大全長399mまでの大型コンテナ船の着岸も可能となります。

引き続き、R1岸壁に隣接するR2岸壁についても、ふ頭再編改良事業としての整備を進め、整備が完了した際には、R1・R2岸壁については水深15m、延長700mの連続バースとして、さらなる利便性の向上が期待されます。

○配布先：中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、名古屋港記者クラブ、
港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、マリタイムデーリーニュース、
海事プレス

<お問い合わせ先>

国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 林、課長補佐 吉田

TEL：052-209-6330

名古屋港管理組合 企画調整室

担当課長（企画担当） 榊原、主幹 浜島

TEL：052-654-7906

名古屋四日市国際港湾株式会社

経営企画部 部長 鈴木、主査 飯尾

TEL：052-651-7585

名古屋港飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業 概要

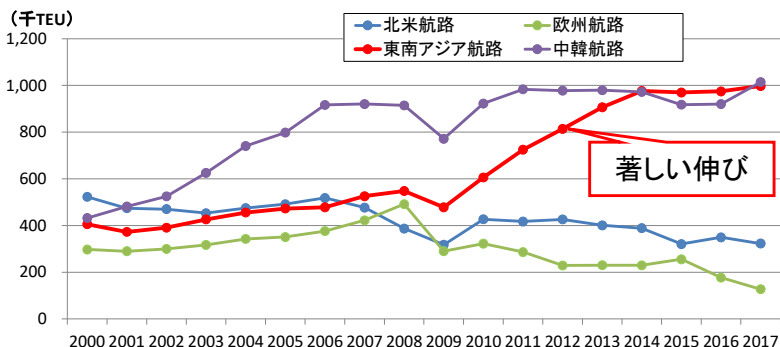
東南アジア向けコンテナ貨物量増加とコンテナ船の大型化に対応するため、既存の水深12m岸壁を水深15mの耐震強化岸壁に増深改良する

事業計画図



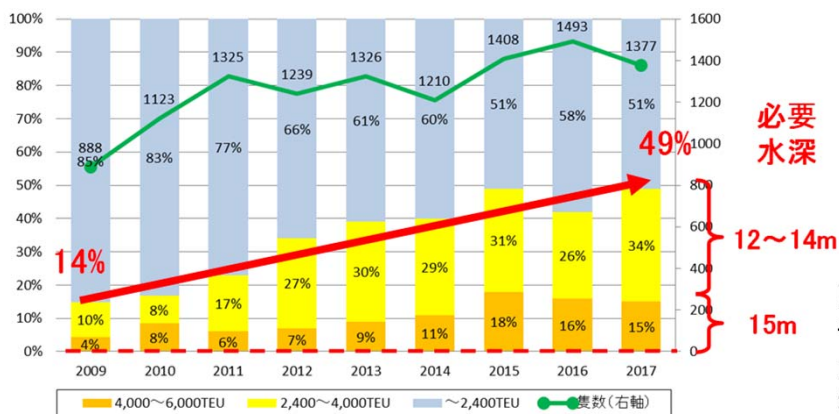
事業背景

1. 名古屋港の東南アジア航路のコンテナ貨物量増加



近年、自動車部品などを中心に、東南アジア向けのコンテナ貨物量が飛躍的に増加している。

2. 名古屋港東南アジア航路に就航するコンテナ船の大型化



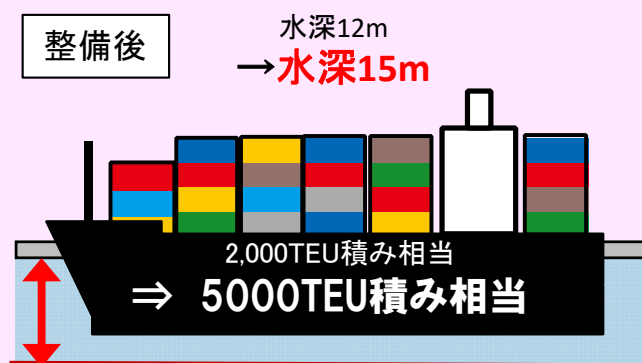
東南アジア航路が就航する飛島ふ頭東側(NCBコンテナターミナル)において、既存の岸壁水深12mを超える大型コンテナ船が増加しており、喫水調整して接岸するなどの対応が行われている。

3. 施設の老朽化



飛島ふ頭東側(NCBコンテナターミナル)の水深12m岸壁(R1、R2)は、供用開始から40年以上が経過し、施設の経年的劣化が著しく、大規模修繕が必要な状況にある。

事業による効果



満載喫水での大型船の就航が可能となる
→コンテナ貨物の輸送効率が向上